ひょうご人権ジャーナル

きずな KIZUNA

1
2023年
令和5年

特集 地域の安全・安心

誰も取り残されない社会をつくる

INDEX

2 「躍動する兵庫、新時代への挑戦」
　齋藤　元彦（兵庫県知事）

3 「神戸には地震が来ない」
　大橋　末歩さん（フリーアナウンサー）

4 「災害時に人の尊厳を守るための防災対策
　～関東大震災の教訓から学ぶ～」
　国崎　信江さん（株式会社危機管理教育研究所　代表）

5 「被災地KOBEから世界へ
　～野菜を通じてウクライナ避難者に寄り添う～」
　特定非営利活動法人 CODE海外災害援助市民センター

6 「未来につなぐ災害の経験と教訓
　～忘れない、伝える、活かす、備える～」
　ぼうさいこくたい2022

7 ふれあいサロン

8 情報ぷらざ

ひろげよう こころのネットワーク

兵庫県・(公財)兵庫県人権啓発協会
兵庫県マスコット　はばタン

巻頭言

躍動する兵庫、新時代への挑戦

兵庫県知事　齋藤元彦（さいとう もとひこ）

新年あけましておめでとうございます。

新型コロナウイルス感染症が広がりを見せてから三年が経過しました。これまでの経験と教訓を活かしながら、感染防止対策と社会経済活動を両立させるウィズコロナの時代に入ったと言えるでしょう。一方、混迷するウクライナ情勢等を背景にした物価高騰や円安が、私たちの暮らしに大きな影響を及ぼしています。

こうした変化の大きな時代だからこそ、受身になることなく、新たな挑戦を起こすことが大切ではないでしょうか。令和五年は「躍動する兵庫」の実現に向け、果敢にチャレンジする年にしたいと思います。

その一つは、新たな産業活力の創出です。中小企業やスタートアップが持っている既存の技術と地域課題とのマッチングを広げ、新たなイノベーションを生み出します。また、水素エネルギーの利活用や中小企業のCO_2排出量削減の支援強化など、脱炭素社会に向けた取組を加速させます。ドローンや空飛ぶクルマなどの次世代モビリティの社会実装にも挑みます。

また、兵庫が関西と瀬戸内の結節点にあるという好立地を活かし、両エリアをつなぐ大交流圏の形成をめざします。大阪・関西万博が開催される二〇二五年には、瀬戸内国際芸術祭も開催される予定です。県内各地をパビリオンに見立てて誘客する「フィールドパビリオン」を核に、関西圏域とは万博に関連した連携事業を、瀬戸内圏域とは芸術・文化等をテーマにした連携事業を行えるよう、着実に準備を進めていきます。

若者の学びの場も充実させます。県立高校等において、魅力・特色あるカリキュラムの充実やICT化を進めることに加え、生徒ファーストの視点で、老朽化が進む学校の施設・設備や部活動の用具・備品等を改善します。中高生からのアントレプレナーシップ（起業家精神）教育も推進し、課題解決に主体的に取り組む力を伸ばします。

県政の推進にあたって、今年ももっとも大切にする姿勢は、現場主義の徹底と対話の重視です。私自身、引き続き積極的に県内各地域に足を運び、医療や交通、観光、教育など様々な課題について県民の皆さまと対話をし、施策につなげていきます。

皆さまのご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

阪神・淡路大震災から四半世紀が過ぎ、兵庫県では「忘れない」「伝える」「活かす」「備える」を基本コンセプトに次の世代に継承・発信する取組を進めてきました。近年、地震や豪雨による自然災害が頻発しており、様々な自然災害から自らの生命を守るための行動が必要となっています。

本号では、震災の教訓や経験を生かし、地域でつながり、支え合い、助け合える社会づくりについて考えてみましょう。

特集 地域の安全・安心

神戸には地震が来ない

フリーアナウンサー　大橋（おおはし）　未歩（みほ）　さん

プロフィール

2002年テレビ東京入社、スポーツ、バラエティー、情報番組を中心に多くのレギュラー番組にて活躍。2013年に脳梗塞を発症し、休職。療養期間を経て同年9月に復帰する。2018年よりフリーで活動開始。現在は厚生労働省の循環器病対策推進協議会委員、救急医療の現場における医療関係職種の在り方に関する検討会構成員を務める。16歳の時に阪神淡路大震災を経験したことで防災意識を強く持ち2018年防災士の資格を取得する。

あの日を忘れない

「神戸に地震は来ない」。須磨区に生まれた私は幼少期からそう聞いて育ちました。しかし1995年1月17日午前5時46分。未曾有の大地震はやってきたのです。地震はないなんて安全神話。現実には「まさか」は起きました。寝ていた私はベッドごと突き上げられましたが、地震自体の経験があまりに乏しく身体が硬直して一歩も動けず助けに来た父親に担ぎ出されました。

トイレ環境の大切さ

家族全員無事でしたが、当時15歳だった私はしばらく学校に行けぬまま、被災生活がスタートしました。ライフラインが全て止まった生活でまず困るのがトイレです。幸い近くに川が流れていたので、弟や近所の子ども達と協力しての水汲みが毎朝の日課となりました。冬の寒さと水の重さに指がもげそうだと感じたのを覚えています。用を足す度にバケツに汲んだ水を便器に補充しました。父が避難所にいる友人を訪ねた時、差し入れた食料に手をつけないので理由を聞くと「トイレに行きたくなるのが怖くて食べられない」と。避難所のトイレを見に行くと汚物が積み上がっていたそうです。トイレ環境は、精神衛生面だけでなく、食事と切っても切れない関係であることを痛感しました。

故郷が火の海に

停電してから3時間後くらいに一瞬電気が復旧し、テレビを点けたら阪神高速が横倒しになっていました。あまりの被害の大きさに呆然としているとまた停電。その後、マンションの屋上に行って眼下を見ると数カ所から火の手が上がっていました。通電火災でした。一時的に電気が復旧したために、漏れたガスや壊れた電器類に着火したのです。思い出が詰まった故郷が火の海になっていく様は耐え難い光景でした。通電火災防止のため、揺れがおさまった後には、ブレーカーを落とすことも学びました。

自分で自分の命を守る

その後防災士の資格もとり「自助」「共助」「公助」を知りました。大災害ほどインフラやライフラインは寸断され公助は遅れます。まずは自分で自分の命を守る「自助」が大切なのです。阪神淡路大震災の死因は圧死が多かったので、私は「死なない寝室」をテーマに、寝床脇に大きな家具は置かないようにしています。あの日助かった命を無駄にしないように、まずは自分の命をしっかり守りながら、防災意識を高めるべく今後も発信していけたらと思います。

災害時に人の尊厳を守るための防災対策 ～関東大震災の教訓から学ぶ～

株式会社危機管理教育研究所　代表　国崎（くにさき）　信江（のぶえ）さん

関東大震災から100年

2023年9月1日は、関東大震災から100年の日です。関東大震災は震源が神奈川に近いこともあり、東京より神奈川の方が揺れは強く、私が生まれ育った横浜は壊滅的な被害を受けました。横浜は、開港から日本の玄関口の一つとして60年かけて近代都市へと発展し、震災当時も既に44万人が住む商業都市として栄えていました。外国人居留地には外国商館、外資系銀行、ホテルなど煉瓦や石造りのモダンで洒落た洋館が並ぶ異国情緒あふれる街でした。それらが一瞬にして崩壊し、さらには揺れの後の猛烈な火災により一夜で焼け野原となりました。観光地として有名な山下公園は、市内の被災した建物のがれきを集め、埋め立てて作られた公園です。

災害時の流言

さて、その関東大震災では未曾有の被害による大混乱のさなか「朝鮮人が放火、爆弾を所持、井戸に毒を投入」などの流言が瞬く間に広がり、それを信じた軍隊や自警団などが朝鮮人を殺害する事件が起こりました。当時の震災前からあった朝鮮人に対する偏見、差別、無関心に加えて災害の恐怖や不安、通信や交通の途絶から冷静な判断ができずこうした痛ましい事件が起きたと考えられます。このように日本だけではなく世界的にみても大戦争や大規模災害が発生すると、社会は不安や極度のストレスによって日頃の差別意識や敵視の感情が露わになり、周囲の同調意識も高まって集団暴行や虐殺に至ることがあります。

自助共助の取組

このような人の尊厳を虐げる行為を繰り返さないために、関東大震災100年を機に私たちは、自助共助の取り組みを確実に実行していかなくてはなりません。「備えあれば憂いなし」の言葉どおり、自宅の耐震化や家具の転倒防止策、ライフラインの代替機器、飲食物等の十分な備蓄があれば、命や体を守り、家も無事で住み続けられるので心にゆとりができて、地域の外国人を含む災害時要配慮者を慮る気持ちも生まれるでしょう。反対に、何も備えていなければ先の不安ばかりで心に余裕もなく誰かを責めることで自分を守ろうとするかもしれません。そのような人が大勢いて声が大きくなれば地域の秩序に影響が出ます。日常も災害時も自己責任において成すべき事を成し、地域とのつながりを大切にして偏見をなくし寛容な心で他人の理解に努めることが、巡って自身の安全安心な暮らしに繋がっていくのだと思います。

プロフィール

危機管理アドバイザー。女性や生活者の視点で家庭、地域、企業の防災・防犯・事故防止対策を提唱している。講演、執筆、リスクマネジメントコンサルなどのほか、文部科学省『地震調査研究推進本部政策委員会』委員、内閣府『防災スペシャリスト養成企画検討会』委員、東京都『震災復興検討会議』委員などを務める。テレビ・ラジオ・新聞などで情報提供を行っている。また災害が起きるといち早く被災地に入り支援活動を実施している。

被災地KOBEから世界へ
～野菜を通じてウクライナ避難者に寄り添う～

特定非営利活動法人CODE海外災害援助市民センター
神戸市兵庫区中道通2-1-10
TEL:078-578-7744
https://code-jp.org/

Q 活動を始められたきっかけは

A 1995年の阪神・淡路大震災で被災地KOBEが世界約70の国と地域から援助を受けました。その後発生する国内外の災害に対して、お返しをしようとKOBEの被災市民たちが立ち上がり、救援委員会（CODEの前身）が設立されました。CODEは、阪神・淡路大震災から27年で世界36の国と地域の被災地で65回の救援活動を行ってきました。近年は、自然災害だけでなく、コロナなどの感染症や紛争などの難民などの支援も行っています。

Q ウクライナから避難されている方々の支援について

A 現在、19世帯32名の方々に規格外の新鮮な有機野菜をお届けする「MOTTAINAIやさい便」を実施しています。これは野菜を届けるということをきっかけに避難者の方々の暮らしを知り、日本で生活する上で不便に感じておられることなど、きめ細かなニーズに対応できるように活動しています。また、ウクライナ日本交流会や稲刈り体験なども開催し交流を深めています。

Q 私たちにできる支援

A まずは、ウクライナ避難者のことに関心を持ち続けてほしいと思います。現在の状況が常態化し、関心が薄れているように感じています。関心を持ち続ける事で支援が広がると感じています。そして、市民一人ひとりが寄付や野菜の提供、通訳ボランティアなどにつながっていきます。ぜひご協力をお願いします。

Q 今後の抱負

A 被災地KOBEから始まったCODEの活動理念は「最後の一人まで救う」です。大きな支援から取りこぼされている人たち（最後の一人）を優先的に支援しています。ウクライナの避難者の支援だけでなく、昨年のアフガニスタンの政変で逃れてきた避難者やベトナムの技能実習生や留学生たちにも野菜を提供しています。その他の外国籍の方々の暮らしやその問題にも関心を持ってもらえるよう活動していきます。

Q 県民の皆様へメッセージ

A 震災を経験した兵庫県民の皆様は、他の場所で災害が起きると他人事ではないと思われる方が多く、そのような方々が被災地のNGOであるCODEを支えてくれています。近年の紛争や感染症、気候変動などにより危機を「市民の助けあい」の力で乗り越えていきましょう。引き続きよろしくお願いします。

未来につなぐ災害の経験と教訓
～忘れない、伝える、活かす、備える～

ぼうさいこくたい2022
https://bosai-kokutai.jp/2022/

ぼうさいこくたい

ぼうさいこくたいは平成28年に内閣府、防災推進協議会、防災推進国民会議が、国民の更なる防災意識の向上を図るため第1回大会を開催し、今回で7回目の大会となります。

今回は令和4年10月22日・23日に「第7回防災推進国民大会」が人と防災未来センター等HAT神戸地区にて開催されました。防災に関する活動を発信・共有することを目的に、講義型セッションや来場者が楽しく学べる体験型ワークショップ、ブースでのプレゼンテーション、屋外展示等が催され、約12000人の方が来場し盛況の内に幕を閉じました。また、未就学児向けにポケモンぼうさいきょうしつも行われ、大人から子どもまで楽しめるイベントでした。

ぼうさいスタンプラリー

1月17日まで「ぼうさいこくたい2022スタンプラリー27年前の阪神・淡路を動画でみてあるく」が開催されています。

このスタンプラリーは兵庫県と大阪府内40か所において震災当時の動画を視聴し、質問の答えに正解しスタンプを7つ獲得するとプレゼントへの応募ができます。動画では「激震の記録1995取材映像アーカイブ」からチェックポイントに関する映像を見て、学ぶことができます。

チェックポイントのメリケンパークでは震災メモリアルパークが設置されており、阪神淡路大震災によって被災したメリケン波止場の一部をそのままの状態で保存し、見学できるようなっています。

また、神戸港の被災の状況などを記録した模型や映像、写真パネルなども展示されており、震災の被災状況を間近に見て、肌で感じることができます。

この他にもハーバーランドや南京町などに行ってみました。復興を果たした現在では震災の被災状況は訪れるだけでは見つけることができませんでしたが、スタンプラリーの映像を見ながら当時を振り返ることで、被災の状況を学ぶ事ができました。

阪神・淡路大震災の記憶の風化が唱えられる中、記録から震災の教訓を思い出すとともに、阪神・淡路大震災を経験していない世代の方も学ぶことができる内容となっています。

この機会に防災について再度見直し、地域のつながりや共生の心について考え、災害に強い地域づくりを進めていくことが大切です。

HYOGO・KOBE 2022
ぼうさいこくたい

図書紹介

16歳の語り部

2016年3月11日、「東日本大震災」から5年がすぎ、津波で甚大な被害を受けた宮城県東松島市の当時小学5年生だった3人が、16歳となり、あの日の記憶を「ただのつらかった過去」にせず、「学び」に変えるために語った本です。

読み進めるうちに、東日本大震災で子どもたちが何を経験し何を思ったかを鮮明に思い浮かべることができます。

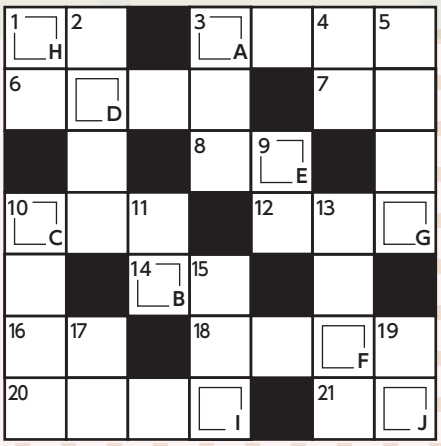
命の大切さは当然のこと、阪神・淡路大震災の記憶の風化が唱えられる中、震災の記憶を語ることにより、防災へつなげていくことの大切さを再認識することができる作品です。

著者／雁部　那由多、津田　穂乃果、相澤　朱音
監修／佐藤　敏郎
発行／ポプラ社

ふれあいサロン

投稿＆クロスワードで
オリジナル「折りたたみエコバッグ」をプレゼント!

問 A～Jの文字を順番に並べると、何という言葉になるでしょう?



タテのカギ

1 タカ科の鳥の中でも比較的大型
2 走っている人
3 火災を防ぐこと
4 沖縄県の県庁所在地
5 迷路の終点はゴール、では始点は？
9 寿司の具材
10 お正月の羽根つきで使います
11 太陽の____　バベルの____
13 パソコンのマウスをカチッと
15 鏡のことを英語で
17 アサリやホタテなど
19 損の反対

ヨコのカギ

1 稲の茎などを乾燥させたもの。納豆を包むことも
3 基本給に追加で支払われます
6 赤は「とまれ」、青は「すすめ」
7 国連のには世界地図とオリーブの枝が描かれています
8 天下の回りもの
10 トランプのマークはスペード、ダイヤ、クラブと何？
12 音楽で使う指揮棒をカタカナ３文字で
14 日本は周りを――に囲まれています
16 足が 10 本ある魚介類
18 テニスやバドミントンで使います
20 トラのことを英語で
21 小学２年生で覚える１桁 ×1 桁の掛け算

11 月号の答え
コンプライアンス

読者からのお便り

ストレスに打ち克つ力、SOCの存在を初めて知りました。精神力の強い宇宙飛行士の方のストレス解消法は、ごくごく普通の私にもできる方法なので、是非取り入れてみたいと思います。又、「ストレスに感じることもいつか終わる、何とか克服できるんだ、今苦労していることは、何かしら将来の役に立つ」と、ストレスでパンパンになっている心、頭にこれらの言葉が何よりも助けになると思いました。
（やっちゃんさん　神戸市）

「ダイバーシティ&インクルージョンの推進」「職場のメンタルヘルス」
このようなことがもう50年、いえ30年でも早く取り組みがさされていればひとりで頑張って、力尽きて倒れてしまうなんてことは避けられたのに・・・
現役の皆さん、仲間を増やして頑張ってくださいね。あなたの人生はこれからです。
（サッチーさん　芦屋市）

■「読者からのお便り」の投稿掲載者（令和5年3月号）とクロスワードの正解者（抽選で10名）に、「オリジナルエコバッグ」をプレゼント。本誌「きずな」へのご意見やご感想、人々とのふれあいを通した心温まるエピソードなどを募集しています。どしどしご投稿、ご応募ください。
※投稿掲載時はペンネームの使用も可能です。　※当選者の発表は、賞品の発送をもって代えさせていただきます。

■応募方法・締め切り
はがき、FAX、Eメールで受け付け。クロスワードの答え、郵便番号・住所、名前（ペンネームを使用の場合も要併記）、電話番号、年齢、本誌へのご意見・ご感想を明記の上、ご応募ください。

■応 募 先
〒650−0003　神戸市中央区山本通４丁目 22 番 15 号　県立のじぎく会館内
（公財）兵庫県人権啓発協会「きずな」ふれあいサロン係
TEL：078（242）5355　FAX：078（242）5360　Eメール：info@hyogo-jinken.or.jp
＊応募者および投稿者の個人情報は、管理を適切に行い、誌面づくり以外の目的には利用いたしません。

締め切り 令和5年1月31日（火）必着

情報ぷらざ
information

人権啓発ビデオ紹介

令和4年度人権啓発ビデオ『バースデイ』が完成しました。

【テーマ】

性の多様性を認め合う
～誰もが自分らしく生きられる社会をめざして～

【作品内容】

この物語の主人公・美由紀は、娘だと思ってきた笑花（尊）から自認する性が男性であることを告げられ、激しく動揺します。親としての感情ゆえに、はじめは拒絶する美由紀ですが、周囲の人々との交流などにより、性の多様性について少しずつ理解が進み、自分らしく生きようとする我が子の苦悩や願いに気づき、向き合っていこうとします。

字幕副音声付/37分

【出 演 者】 鈴木　砂羽　　坂本　澪香　　菊池　麻衣子
菅原　大吉　ほか
【企　　画】 兵庫県、（公財）兵庫県人権啓発協会
【企画協力】 兵庫県教育委員会
【制　　作】 東映（株）
【販　　売】 東映（株）営業推進課　TEL 03（3535）3631

詳しくは 兵庫県人権啓発協会 検索

当協会では相談事業を行っています。

相談は**無料**（通話料はかかります）

078-891-7877

●受付時間：平日 9:00 ～ 17:00

弁護士による人権専門相談

■新型コロナ差別やインターネット上の誹謗中傷等でお悩みの方
■受付時間：木曜 15:00 ～ 17:00

兵庫県LGBT電話相談

●ご本人、ご家族、ご友人、教員の方などどなたでも相談できます

050-3637-7521

●受付時間：
土曜 18:00 ～ 21:00

ラジオ関西
「谷五郎の笑って暮らそう」
（毎週火曜日10:00～13:00）で、12:30頃から「きずな」の記事等を紹介しています。

HALF TIME

9月に行いました読者アンケートに多くの方からご意見をいただきありがとうございました。いただきましたご意見を参考に、改善等も考えながら今年もきずなの編集を進めて参ります。どうぞよろしくお願いします。

「きずな」は、協会ホームページからもご覧になれます。
兵庫県人権啓発協会 検索

（公財）兵庫県人権啓発協会　〒650-0003　神戸市中央区山本通4-22-15　県立のじぎく会館内
TEL 078（242）5355　FAX 078（242）5360　info@hyogo-jinken.or.jp

2023（令和5）年1月発行